

活動報告



魁会の発足以来、月に1度のペースで会議を開いて、活動行事について様々な意見交換を行い、魁祭への参加や同窓会会報誌の発行などに取り組んできました。

》会議(魁会)

- 第1回 6月20日 これからの活動について
- 第2回 7月10日 会報誌発刊に向けて
- 第3回 8月 7日 会報誌原稿依頼について
- 第4回 9月13日 会報誌発刊に向けて
- 第5回 10月 2日 魁祭バザー参加について
- 第6回 10月23日 魁祭バザーの準備
- 第7回 11月 6日 同窓会名簿について
- 第8回 11月21日 会報誌発刊に向けて

》藤花会会議に参加

- 5月29日 香川学園同窓会4部会会議
- 6月18日 第6回香川高等学校女子部同窓会総会
- 8月13日 香川高等学校男子部・普通科A同窓会総会
- 10月31日 香川学園同窓会4部会会議

卒業記念品



宇部フロンティア大学・大学院第1期卒業生より、卒業記念品として大学のロゴ入りテント一式・時計を寄贈いただきました。学内のさまざまな行事で大活躍していると聞き、私たちも大変嬉しく思います。大切に使うといいね。

お知らせ

》このたび正式に本学同窓会の名称が「魁会」に決定いたしました。本学同窓生がより連携し、共有できる組織を目指して様々な活動に取り組んでまいります。

》2006年度卒業アルバムについて、個人写真の名前が誤って記載されていたので、お詫び申し上げます。

(誤) 清水 美香さん → (正) 清木 美香さん

他にも誤りがある方は、お手数ですが魁会事務局までご連絡ください。

》氏名、勤務先、住所、その他が変更となった際は、魁会事務局までご連絡ください。

《連絡先》 魁会事務局 TEL(0836) 38-0500

》来夏、初の同窓会総会を企画中です。また詳しいことが決まり次第、追ってお知らせ致します。

魁会役員紹介



会長	幹事
野田玄佑	武田朋昭
副会長	三木伸子
阿武未久	富田祥代
理事	田中涼子
多田和樹	清木美香
清水歩	監査会計
伊藤律子	石田沙織
松岡恵加	石川雅子
飯田瑠未子	
井手上友美	

編集後記

宇部フロンティア大学、大学院の第一期生が本学を卒業して、早いものでもう9ヶ月が経ちました。初めての会報誌作りは、想像以上に大変で困難を極めました。なんとか皆様のお手元にお届けすることができました。同窓生の皆様の本誌をご覧になり、懐かしみ、楽しんで頂ければ幸いです。社会人となり、頑張っている三木さん、徳光さん、藤本さん、お忙しい中ご協力頂き本当にありがとうございました。本誌は皆様のご協力の基で作成してまいりますので、今後原稿等の依頼をお願いすることがあるかと思っております。その際には、共に素敵な会報誌が作れるよう宜しくお願い申し上げます。

(魁会広報室一同)



ご挨拶

宇部フロンティア大学・大学院 同窓会
魁会会長 野田玄佑

宇部フロンティア大学は、2002年4月に開学さ

れました。2004年には、大学院人間科学研究科臨床心理学専攻、さらに2005年には人間社会学部に児童発達学科を増設。2006年には人間社会学科を福祉心理学科に学科名変更。そして2007年4月には2つ目の学部である人間健康学部看護学科が開設予定と、教育の分野も拡がりをもってきています。また、大学院開設と同時に併設された大学院附属臨床心理相談センターを利用される

方もますます増えてきており、地域に密着・貢献できる大学として発展しつつあります。そのような中、2006年3月の第一期生卒業に伴い、宇部フロンティア大学・大学院の同窓会である、「魁会」が発会いたしました。

同窓会の役割としては、母校の発展・変化に伴う今の姿を会員の皆様へお伝えすることが挙げられます。この会報誌が、それぞれの分野で活躍されている会員の皆様、また、今後さらに増えるであろう会員の皆様のお役にたてるようにと考えております。

また、母校発展のための実質的な支援として、本学の学園祭である「魁祭」を運営するための資金援助なども行なっていきたいと考えております。今後、同窓会主催のイベント・講演会なども計画していく予定です。その際には是非とも多くの方々の参加を願っています。

母校が、卒業生が誇りを持てる大学として発展し、また、さらなる地域貢献を行えるよう役員ともども尽力する所存です。会員の皆様方におかれましては、ますますのご支援、ご協力をお願いいたします。

同窓会誌の発刊に寄せて



藤花会会長 高田 政嗣
masatsugu takada

同窓会会報誌の創刊、おめでとうございます。宇部フロンティア大学第一期生の卒業生として、大学の今を伝えるべく同窓会会報誌を発行されたことは大変意義深く、感銘を受けております。大学同窓会は、今植樹されたばかりの苗木のようなもので、これから様々な風雪に耐え年輪を重ね風格のある大樹に育っていくものと思います。その意味からも会報誌の創刊は人に例えるならば出生届であり、長い年月を経ていく中で歴史の1ページを紐解く貴重な宝物となるでしょう。今後、私立大学・高校を取り巻く環境は少子化の流れの中、その厳しさは益々増していくものと考えられます。そのためには同窓生同士が連携を取りながら社会への貢献・地域との交流等、着実な活動を展開することが、より地域に根ざした大学としての存在感を得ることが出来るものと思います。未来への大志を抱き、次なる時代を切り拓いていかれることを信じ、期待をしております。藤花会も大学同窓会が新たに加わることで、機能も強化された学園全体の同窓会組織となります。さらなる母校の発展に少しでも力添え出来ますよう共に手を携えて、一步一步前進することを願って止みません。同窓生の皆様の御支援と御協力を心よりお願い申し上げます。最後に、会報誌の発刊に当り、御尽力された関係者の方々に敬意を表するとともに、同窓生の今後益々の御活躍を祈念申し上げます。



理事長 武下 浩
hiroshi takeshita

大学の発展は同期生同士の横のつながりと同時に、先輩、後輩の縦のつながりがあってこそ、学風が育ち伝統が築かれる。宇部フロンティア大学・大学院の一期生が今春卒業したのを機会に、両者をまとめた同窓会が結成されたことは大変喜ばしいことである。卒業が近づくにつれて、どのような動きになるかと気にしていたが、卒業生有志の者、学生担当の教職員の手助けもあって、発足に漕ぎつけることができた。同窓会誌の発刊に当たり、二つのことを述べておきたい。一つは、本同窓会は香川学園全体の同窓会である藤花会の構成員であるということである。歴史的にも、教育レベル的にも異なる中学、高校、短大、大学・大学院の同窓会が1つにまとまることは、香川学園の発展を支えるという一点での結束である。それぞれが、自由にそれぞれの同窓会活動を活発に行うことが大切であるが、そうしたなかでも常に全体の枠組みを意識しておくという姿勢を守って欲しい。第二は、宇部フロンティア大学は、卒業生にとって何を目指す大学であったか、そこで卒業生は何を学んだかということへの自問である。建学の理念「人間性の涵養と実学の重視」と教育モットーである「学際的、横断的、俯瞰的なものの見方を重視する—まとめて言えば総合的なものの見方もよい—」をぜひとも想起して欲しい。そのようなものの見方、考え方ができれば、その中から斬新な発見、創造的な思考が生まれて、フロンティアとなりうる。物事を総合的に見ることでできる人間、バランス感覚の優れた人間でないと、21世紀の社会で活躍することは難しい。私たちの大学・大学院は、やっと完成年度を迎えた大学である。これが大きく成長して高い社会的評価を得るには、教職員、在学生はもちろんのこと、同窓会からの支援なくしては不可能である。いきなり大きなことを考えても実行できなければ意味がない。たとえば、魁祭をhome coming dayとして都合のつく先輩たちは大学へ来てくれないだろうか。20年後には社会で立派に活躍する同窓生が多く出るであろう。後輩の就職説明会に来てくれないだろうか。30年後には己が人生を振り返って、大学キャンパスを心の故郷として訪れてみたくなる人も出るであろう。フロンティアにおける教育の成果は、そのような人がどれだけ輩出するかで決まる。同窓会の皆さん一人ひとりの健勝と同窓会の発展を心から祈っている。



学長 山田 通夫
michio yamada

本年（2006年）3月、宇部フロンティア大学・大学院の第一期生がめでたく卒業となり、これを機に同窓会がスタートしました。この度のこれを記念しての会報誌発刊は誠に慶ばしく、心からお祝い申し上げる次第です。同窓会の中心メンバーは当然のことですが本学の卒業生の皆様です。しかし、教職員も在学生もそのメンバーであると考えます。社会へ入られた皆様方には是非お願いしたいのは、母校で机を並べて学んだという共通体験を基盤に、今後とも互いに励ましあい、一層の交流を続けて欲しいと思います。家庭、職場、社会の中でしっかりと生きていくことが、今、皆様一人ひとりに求められています。確かに物質的に生きていくことは容易かもしれませんが、精神的に充実した生活となると、いろいろ困難かもしれません。これについては昔も今も同様難しかったのです。卒業後、会社訪問、面接など就職についてのノウハウや、職場でのいろいろな体験について指導を下さっている同窓生の皆さんにお礼を申し上げます。これが同窓会の事業の一番の最初の仕事であると感じました。歴史の新しい大学の同窓会としてこのような先輩と後輩の積み重ねこそが、同窓会の将来に大きく寄与するものだと思います。母校との連携を密にし、着実に活躍されることを期待しています。まず、ここ宇部に最初の拠点ができました。今後、日本の各地に、さらに山東省など中国にも支部が誕生する日が一日も早いことを祈っています。同窓会の今後一層のご発展、心よりお祈り申し上げます。

同窓生の声

》新しい環境でみんな頑張っています。

宇部フロンティア大学大学院 人間科学研究科
2006年3月修了



三木 伸子

早いもので、大学院を修了して半年が経ちました。私は現在、精神科病院に心理士として勤務し、週1日は高校でスクールカウンセラーとして勤務しています。病院では外来、入院患者さんに心理面接や心理検査を行い、また、ナイトケアにもスタッフとして参加しています。さまざまな場面で患者さんとふれ合うことで、毎日、感動や戸惑いを感じています。高校では、個人面接の他に、休み時間や放課後に生徒さんや先生方とお話する時間も大切にしています。学校という組織のなかに入っていき難しさも感じますが、病院と違う雰囲気の中で働けることは、良い経験になっています。現場の大変さも痛感していますが、そんなとき、大学院の同級生と話して大変さを分かち合えたり先生方に指導していただくことができ、心強く思っています。大学院では、知識だけでなく、非常にたくさんのものを得ることができました。それを糧として、これからも自分なりにがんばります。



宇部フロンティア大学 人間社会学部
2006年3月卒業



徳光 知隼

私が大学を卒業して就職し約5ヶ月が経ちました。その間に苦しい事、辛い事がたくさんあった気がします。会社に入ると周りは皆自分より年上の方ばかりで、必要以上に気を使って気疲れし、それでも気が利かないと言われ、落ち込んだこともあります。なにより大変だったのが、知り合いが一人も周りに居ないことでした。勤務地が千葉県に決まり、今まで住み慣れた場所、親しくしていた友人等と遠く離れてしまいました。正直心細いところもありました。しかし大学での同期や地元の友人らが電話を掛けてくれたり、メールをくれたり、またネットの掲示板に書き込みをして私を励ましてくれました。そのおかげで今の私があるような気がします。今回遠方に勤務になったことによって、人との繋がり、友人の存在の大切さを身をもって実感しました。私はこの繋がりをずっと大切にしていきたいと思います。



宇部フロンティア大学 人間社会学部
2006年3月卒業



藤本 淳也

4月に就職してから半年が経ちました。最初はやはり、学生気分が抜け出せず、職場の先輩方のやることを真似したり、質問したりしていました。しかし、3ヶ月経った頃には、自らの判断で進んで行動しなければいけない立場にいました。デイサービスにいた私は、レクリエーションを1人で任され、自分の考えたプログラムと持ち前のキャラクターで利用者様に楽しんでいただこうと必至でした。今では、相談員として家族やケアマネージャーと連絡調整を行ったり、施設の説明をしたりしています。社会人になって変わったことは、やはり社会的に責任を負うようになったことと、年齢問わず様々な方に報告、連絡、相談が多くなった事だと感じています。



魁 祭

第5回魁祭に魁会も参加し、大奮闘!

[2006.10.28(sat) -29(sun)]

去る10月28日(土)・29日(日)の2日間にわたり、宇部フロンティア大学中山キャンパスで、第5回「魁祭」が開催されました。今年のテーマは「煌(きらめき)」。本学初の卒業生を送り出しての学園祭でしたが、天候にも恵まれ、地域の方にも多数ご来場いただき、例年通り大成功の末、幕を閉じることができました。魁会も学園祭を盛り上げるべく、はりきってPTAとの協賛のバザーを出店しました。何とんでも目玉商品だったのは有機野菜!!美東の農園をはじめとする方々の協力を頂き、キャベツや大根、ゴボウなどのほか、厚保栗など産地の名産を格安で販売し、大盛況に終わりました。今回このような形で魁祭に参加できたことは、同窓会役員一同、大変嬉しく思います。より多くの方々に喜んでいただける企画の1つとして、今後、魁祭で定着させていきたいと考えています。来年は卒業生の皆さんも遊びに来て下さい。

う
れ
た
ん
た
っ



準備に大忙し!



沢山のお客さんで賑わいました。



オススメ商品は秋の味覚、栗!



オープンキャンパス



[2006.7.30(sun)・8.20(sun)・9.16(sat)]

説明会、模擬授業、体験コーナーなど多くの受験希望者が参加されました。

宇部まつり



[2006.11.4(sat)・11.5(sun)]

宇部の街を神輿を担いで大行進!天候にも恵まれ、見物客で賑わいました。

スポーツマッチ



[2006.5.30(tue)]

チーム一丸となり優勝目指して、いい汗流した1日でした!

大学院第1期生修了式



[2006.3.20 (mon)]

本学大学院の第1期修了生たちは、現在全国各地で活躍しています。

人間健康学部看護学科設置認可・新校舎建設中



一部4階建ての新校舎《完成予想図》



建設中



地鎮祭

11月30日、「人間健康学部看護学科」の設置が認可されました。看護学系の設置は山口県内の私立大学では初めてとなります。来年4月の開設で定員は80名(+3年次編入学定員5名)、専任教員32名(完成時)です。校舎は本年5月に着工し、来年2月に完成の予定で、鉄筋コンクリートの2階建て(一部4階)、延床面積4,081㎡、建設費5億1千500万円となっています。

フロンティアの つぶやき

レンタルビデオは危険だということに最近気がついた。たまたま見たい映画があったので、仕事帰りにレンタル屋に寄った。そして、目的の映画を見つけたと同時に他の面白そうな映画も見つけてしまう。そして、2本ほど持ってレジに行く。すると店員さんが、「800円になります。でも、5本借りれば1,000円ですけど...。どうされますか?」と言う。あ、そういえば見たいドラマもあったなあと思える。「じゃあ、5本借りることにします。あと3本持ってきます。」といそいそとドラマを借りる。しかし、ここに危険は潜んでいた。日本のドラマは大体4~5巻と決まっている。アメリカのドラマなんて1シーズン8巻だ。すると、ここで3本借りるとまた次に来たときに続きを借りてしまう。そして、また5本で1,000円という店員の言葉を忠実に守り、また借りる。今度は、ドラマを借りなければいいではないかという至極当たり前のことに気が付くが返却に行き、店内を見て回るといつい見たかったビデオもしくは面白そうなビデオを見つける。そうなるとお金がつづく限り永遠につづく貸出と返却。とまらな...。今度、サマが22メートルに巨大化したモンスターパニック映画借りちゃいます。(ペンネーム:R・I)

写真で振り返る 思い出アルバム

あ〜、あの頃は若かった。って今もまだ若いやろ。



《宇部まつり》



《卒業研究発表》



《卒業記念パーティー》